巻　頭　言

京都市立病院紀要第40巻第1号が出来上がりましたので皆様にお届けします.

本号は第16回合同研究発表会における各所属の発表内容と海外研修報告で構成されています．内科救急・ICLS講習（JMECC）に参加した研修医の経験に始まり，リハビリテーション科からのリハビリ中の皮膚損傷の発生についての検討，薬剤科からの認知症サポートチームでの薬剤師の関わり，臨床検査技術科からは開設後7年経過したエコーセンターの現状についてと続き，看護部からは認知症看護認定看護師の活動状況や昨年スタートした患者支援センターの現状と課題等の紹介があり，その他の部署からもアイデアあふれる実践的取り組みや，心理面や栄養面に分け入った興味深い研究が掲載されています.

2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の中国での流行で幕を明け，またたく間に世界中に広がり，8月下旬の今，日本も第二波のただ中にあります.「通常のかぜ」や「インフルエンザ」と区別がつきにくい感染症で，患者の飛沫を目鼻口に直接浴びる，あるいは，飛沫で汚染された環境を手で触り，その手で目鼻口を触ると感染します．驚くべきことに，感染後の症状が出ていない潜伏期間中でも感染性があることが明らかにされました.「通常のかぜ」や「インフルエンザ」への対策で必要な手指衛生や咳エチケットはもちろん，近距離対面で話す時にはマスクの着用が必須となり，室内の換気の重要性も指摘されています．今回の第1波から第2波に続く過程で全国のどの病院も経営的に大きな影響を受けています．安全で有効なワクチンの登場ないしウイルスの弱毒化が達成されるまで，我々はこのCOVID-19と共に医療を継続する必要があります.

2020年4月には診療報酬改定があり，患者・国民にとって身近であって，安心・安全で質の高い医療の実現が求められる一方，医療従事者の負担軽減，医師等の働き方改革の推進が掲げられ，医療機能の分化と強化，連携と地域包括ケアシステムを推進し，効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上が求められています．当院でも医療の質，経営の質を改善するための多職種職員による活動が始まり成果が見えてきています．病院職員一丸となって当院の医療の質と経営の質を高めるだけでなく，患者満足度と職員満足度の高い病院を目指したいと思っております．皆様おひとりおひとりの力こそがその源です.

最後になりましたが，本号の執筆，編集の労をおとりいただきました皆様に心より御礼申し上げます.

令和2年9月

京都市立病院機構京都市立病院

副院長　　清　水　恒　広